

オートマ デカルコマニー

一原有徳 モノタイプ

宮井保郎

デカルコマニー

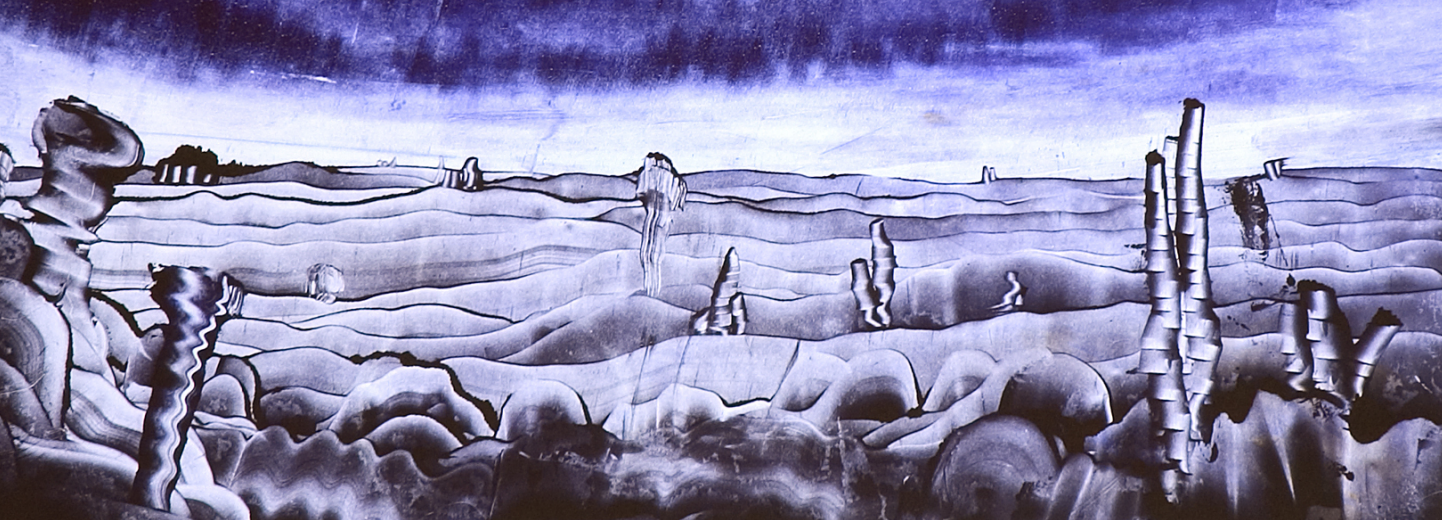
2024.2.17 Sat. ~ 5.6 Mon.



(上)宮井保郎《WIKIPEDIA》2022年 (下)一原有徳《SIM》1998年

1959年に一原有徳が発見した独自の「モノタイプ」技法は、偶然の発見から生まれ、すべてスクレイパー(へら)を使った一原の手の動きの痕跡です。従来の版画が複数性を特徴としているのに対して、1回しか刷ることができません。その独自性は、日本の版画界に大きな衝撃を与えました。

モノタイプ同様に、凹凸のない版に置いたインクをそのまま紙に写し出すオートマティックな手法に「デカルコマニー」があります。市内で額縁店を営む傍ら日本画を描いていた宮井保郎は、顧客の紹介からデカルコマニー版画に挑戦します。ガラスの上に絵具で色を置き、時間の経過を観察しながら紙に写し取ると、美しいマチエールを奏でます。宮井の幻想的な世界を顧客の一人であった一原も高く評価しました。額縁屋と作家の枠を超え、店先でアドバイスや交流を続け、宮井は一原を「先生」と慕いました。そんな二人の絆と、モノタイプとデカルコマニーが生み出す不思議な魅力をご紹介します。ぜひお楽しみください。



市立小樽美術館

3階一原有徳記念ホール

〒047-0031 小樽市色内1-9-5 (JR小樽駅より徒歩10分)

Tel. 0134-34-0035/Fax. 0134-32-2388

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(4/29、5/6日を除く)、2/27、3/21、4/30、5/1

観覧料 一般 500円 高校生/市内高齢者 250円 中学生以下無料

JR函館本線		小樽駅
●小樽経済センター		
●産業会館	都通り	●長崎屋
●オーセントホテル小樽		
旧手宮線		
●金融資料館 (旧日本銀行)	●市立小樽美術館	
●郵便局本局		
●ニトリ美術館		
小樽運河		